

【主な記事】
・文春烈々
・推しは命にかかわるからね
・わが道をゆく 安野さんと
絵画巡り

文春烈々

雑誌の編集長という仕事は何歳まで続けることができるのか。菊池寛

は「編集者三十五歳定年説」と言い、池島信平は「編集長の任期は三年」と述べていたという。日本で編集長の最年長記録は、『日本古書通信』の八木福次郎という人が九十六歳までやり遂げたらしい。

花田紀凱さんは八十歳を目前にして血気盛んだ。花田さんと言えば、『週刊文春』を日本一の総合週刊誌に育て上げた伝説の編集長だ。『月刊Hanada』の現役編集長である。

新谷学さんと言えば「文春砲」というワードが流行りし頃の『週刊文春』編集長。『1111崩壊』十萬部、『父・金正日と私』二十五萬部など書籍編集者として数々のベストセラーを世に送り出してきた。

『2016年の週刊文春』はこの二人を軸に、週刊文春の歴史と現在、そこに集った人々を描くノンフィクションだ。前半は「花田週刊」の物語。本書の著者・柳澤健さんはかつて文藝春秋で花田さんの部下であった。三週間一日も休んでないので、

労働基準法違反では？」と花田さんに尋ねた際に、「雑誌には労働基準法なんかないんだよ（笑）」と返されたというくらい苛烈な雑誌編集部が描かれる。

なぜ「花田週刊」は躍進したか。

一つは花田さんという人そのものだ。文芸・文化・スポーツ・芸能、あらゆるジャンルに精通しているということが週刊誌の幅を広げた。『月刊Hanada』を見ても、思想信条を超えた人々が連載を持ち、文章を寄せている。その人脈に恐れ入る。

一つは多士済々なメンバーが集まっていたということだ。カメラマンには不肖・宮嶋、編集部には今は亡きコラムニスト・勝谷誠彦、グラフィ

ア班には現在も残る人気企画「顔面相似形」「原色美女図鑑」を命名した西川清史さんがいた。花田さん曰く、当時の文春は「異能力士」の集団であった。

一つはその時代である。花田週刊の1990年前後は日本経済も好調。予算も潤沢であった。週刊文春の平均実売部数は七十七萬部、広告収入は一億一千万円を稼ぎ出す号もあった。

一方、「新谷週刊」は厳しい日々だ。部数は四十萬部を維持することが難

しくなり、広告収入は二千萬〜三千万と四分の一にまで縮小していた。紙の雑誌だけでは立ち行かない。そう考えた新谷さんはデジタルへの挑戦に取り組んでいく。

『週刊文春デジタル』では、月額八八〇円で文春の記事を読み放題にした。コンテンツビジネスでは、一つの番組で一回使用するたびに、記事なら五萬円、動画なら十萬円の使用料をとるスキームを作成した。「花田週刊」時代にはなかったデジタルを武器に新たな週刊文春ができたのだ。

なぜ歴代週刊文春編集長の中でも、花田さんと新谷さんだったのだろうか。「マルコポーロ事件」で文藝春秋という会社を去るしかなかった花田さん。春面の掲載により三か月の休職を余儀なくされた新谷さん。同じ雑誌の編集長を経験し、挫折も味わった二人だからこそ、対比できたのではないか。

「花田週刊」のような雑誌の作り方は、今後できないのだろう。けれども、文春だけは気炎を上げ続けてほしい。雑誌ジャーナリズムはまだ滅びはしないと感じられる一冊であった。



花田 紀凱

「言葉」とは「感情の近似値」

元スーパーカーのギタリストで、最近では「関ジャム」（テレビ朝日系）でのロジカルな楽曲分析が人気の作詞家、いしわたる淳治の最新刊タイトルが気になります。『言葉にできない想いは本当にあるのか』

一瞬、小田和正にケンカを売っているのか？と思ってしまうましたが然にあらす。音楽やテレビ、本、広告などからピックアップした「言葉」が、なぜ人の心に「刺さる」のかを解剖しているやさしいコラムです。

誰もが知っているヒット曲の歌詞から、よくそんな一言を拾

ったな、というもので、明日使いたくなるフレーズが見つかるかも。個人的には「許可をもらうより、謝って許してもらう方が常に簡単です」というバンクシーの一言がお気に入りです。

「心に刺さるキラフレーズ」といえば『お寺の掲示板』にも注目。流麗な筆文字で綴られた「おまえも死ぬぞ（釈尊）」や「終活することあなたのお寺さんとは無関係です」といったお寺さんからのメッセージには、別の意味でグサツと刺さるものがあります。意外と食べ合わせは悪くない二冊だと思いますので、よろしければ一緒にどうぞ。



いしわたる淳治 都

ガラケーが懐かしい

今回ご紹介するのは『スマホ脳』。文字通りスマホが脳に与える影響について警鐘を鳴らす一冊です。

ボタンひとつで世界中の娯楽に手が届く。スマホは便利で、私たちの生活を豊かにしてくれました。その一方で、依存度の高い三十〜五十代では「物忘れが激しくなる」「認知機能が低下する」

「判断力が鈍くなる」等、様々な症状を引き起こす要因にもなり得るという恐ろしさもあります。

ただでさえ記憶力が怪しくなっているアラ還の私。これ以上加速させるわけにはいきませんので、まずはスクリーンタイムを制限することから始めようと思っています。

最後に、この原稿を書くにあたり極力、辞書を引いて調べようとして新しい辞書を購入しました。懐かしいインクの香りに心がホッ。

推しは命に

かかわるからね

~~~~~

私自身は熱狂的にだれかのファンになっ

て……ということがなかったけれど、学生

時代、某バンドファンの友人がライブ遠征

したり、CDを買いに走ったりしているの

を傍目でみて、そのキラキラ感がなにかう

らやましく感じていたものだ。『推し、燃ゆ』

はアイドルファンの女子高生が主人公とい

うことだったので、そんな青春のキラキラ

感があるかと思つて読み始めたが、数ペー

ジでそれが間違いだとわかった。

主人公のあかりは家族関係も勉強も（と

いうより生活全般が）うまくできない。そん

なあかりはあるアイドルの男の子を徹底的

に推すという活動に自分の存在理由を見出す。グッズをかうためにバイトに勤しみ、推しのSNS・ラジオ・雑誌記事などすべてをチェックし記録、全力で解釈しSNSで発表……。修行のように身を削る。でも推しを推せなくなったら？

『推し、燃ゆ』は第一六四回芥川賞受賞

作で本屋大賞の候補作にもなっている。

「自分の存在の寄る辺なさ」を描く小説は

古今たくさんあるが、それを「SNS」や

「アイドル」といった現代カルチャーに乗

せて疾走する本作の読後感は強烈だ。

◎



宇佐見りん

# 私小説でなければ描けない深く濃い闇

作家の羽鳥よう子は地下鉄サリン事件

の実行犯、死刑囚Yとの十四年にも渡る

外部交流を行い、事件について取材を重

ねていく。そして書き上げたのが、本書

のタイトルでもある小説『逆さに吊るさ

れた男』である。オウム真理教への世間の

安易な断罪には納得できず、自分なりの

答えを求めてYとやり取りを続けるうち

に、よう子自身もオウム真理教の世界に

どんどん取り込まれていく。アラーム音

に気付きながら自我を制御できなくなっ

ていく様子は不快だがリアリティと迫力

がある。

松本サリン事件被害者の河野氏や佐木

隆三氏との交流も興味深いが、最も印象

的だったのは板橋興宗禅師の言葉、「反省

とは事件を忘れることである」。その言葉

の意味に気付かず、自意識に囚われ溺れ

たよう子は最終的にとんでもない結末を

迎える。

単行本刊行時には批判的な感想も多か

ったようだが、文庫化されて改めて手に

取った。やはり私達が直面した深い闇を

知る上で避けては通れない真実を独特の

アプローチで探る、圧倒的エネルギーに

満ちた凄い小説であると感じた。

◎

# 大河主人公を

## 富山出身漫画家が描く

~~~~~

今年の大河ドラマがいよいよ

よ始まった。渋沢栄一につい

て、名前をギリギリ知っている

くらいという人も多いのでは

と思う。各書店のコーナーに関

連本は多く置かれているが、富

山県民の方にぜひ手に取って

欲しいのが『月刊！スピリッ

ツ』で連載中の『栄一』だ。

町田翠さんは立山町出身で、

一作目は立山町を舞台に女子

高生を描いた『ようことよしな

に』、二作目は落語家を目指す

少年を描いた『開口一番！』を

出しており今回が三作目であ

る。

本作では、幼少時代栄治郎の

頃から描かれる。表紙を見ても

らえば分かるが栄一がとても

可愛らしく描かれており、ペー

ジをめくっていくと著者らし

い描写が随所に感じられた。子

どもの頃から父の商売相手や町の領主など誰が相手でも自分を曲げずに立ち向かっていき、人情にあふれた人物でとても親しみがある。

月刊連載のためか展開が早

く感じたが、多様な経歴を持つ

栄一を描き切るには致し方な

いのだろう。一巻目なので功績

が描かれるのはまだまだこれ

から。大河ドラマも楽しみみ

が、町田版渋沢栄一も今後の楽

しみの一つになりそうだ。

◎



中国・アメリカ現代文学の最前線から

謎なSF七篇の競演！

劉慈欣『三体』（早川書房）な

どの大ヒット作以外にも中国

のSFで面白い作品が続々と

発表されています。中国の広

州を拠点にシンガーソングラ

イター「小島ケイタニークラブ」

としても活動されている小島

敬太氏が翻訳した中国の作家

の作品を四篇、今まで積極的

にはSFを翻訳されてこなか

った柴田元幸氏がSF的で面

白かったアメリカの作家の作

品を三篇集めたアンソロジー

が『中国・アメリカ 謎SF』

です。

巻末の柴田氏と小島氏の対

談で語られています。アメ

リカの現代文学では希望の不

在をテーマとする傾向がある

一方、中国では未来への希望

が語られることが多く、各国

の世相や経済的な状況が反映

されているのが伺えます。S

Fと一言で言っても、今をど

う捉えるのかによってテー

マが決まってくるとのこと。

面白い作品を集めていった

ら、必然的に女性作家が多く

なったとの柴田氏の言葉に

あるように、インド出身で物

理学者のヴァンダナ・シン

や、考古学者のマデリン・キ

アリンなど様々な経歴を持

つ女性作家が選出されてい

ます。

現代海外文学が好きの方

や、『三体』などで中国SFに

興味を持たれた方などは、是

非チェックしてみてください

い！

◎

わが道をゆく安野さんと 絵画巡り

昨年十二月に逝去された画家、安野光雅さん。名前は知らなくても、その絵に覚えのある人は多いのではないだろうか。絵本作家として活躍された安野さんは、エッセイの名手としても知られている。

安野さんのエッセイはたびたび予想通りに進まない自由奔放なところに魅力がある。面白そうな書き出しから始まり、こちらがわくわくしながら読み進めると全く関係ない出来事へととんでいつて肩すかしをくらったり、最後はあれっ？と

なつて終わったりすることも多い。その脱線の具合が絶妙で、ちよつとトボけた味わいがわかるとじわじわとハマってくるのだ。

『会いたかった画家』は、安野さんがご自身の好きな画家たちについて「思いつくままに選んで書いた」エッセイ集。一番好きだというパウル・クレーから始まり、モディリアーニ、ブリュッゲル、小村雪岱など、無作為に選ばれた画家たちが様々な切り口から語られ、先述した「安野節」と絵画の解説がこれ一冊

あなたと私の間にあるもの

「空気を読む」事の難しさは、皆様ご存じのことかと思ひます。では、皆様を取り巻く実際の空気とお付き合ひなればどうでしょうか。生存に必須でありながら、見えず、触れない。こちらの「空気」も、なかなか難儀な存在と言えるのではないのでしょうか。その空気を、人類はいかに捉え、利用してきたの

か。『空気と人類』では様々なエピソードから知ることが出来ます。人類と気体との付き合いは、酸素や二酸化炭素といった構成分子の話におさまりません。肥料を作り、機関車を走らせ、爆発を起こし、空を飛び、人をも眠らせ、殺す。これらすべて、人類が気体を手なずけた技術の結晶です。今や空気は、一人

で楽しめる一石二鳥の本である。目次に有名どころの画家の名が並ぶ中で、最終章に「？」という名前が現れる。その名も冠商店。上野で車を走らせていた安野さんの目に入つたのは、とある荒物屋の看板の絵。写真を撮つてもいいか主人に聞くと、奥の縁側に連れていかれて主人が独学で書いた絵の数々を見せられる。和紙に墨で書かれた「なんとか大師参詣の図」や、ブリキに油で常盤線の景色を描いた作品など、安野さんはすっかり心をつかまれてしまう。その後、安野さんが再びそこを訪ねると……。意外な出会いの結末はどうなるのか？この回は短編小説を読んだような不思議な読後感であるのと同時に、「絵は描き続けることが大事」という安野さんの信条



安野光雅

も強く感じられて、私のお気に入りだ。絵本以外でもこんなに楽しませてくれる安野さんの新しい文章にもう会えないと思うと本当に寂しい。が、ご本人は今ごろ会いたかった画家たちに会えて楽しくおしゃべりしているかも、と思うと頬がゆるむのだつた。

間の生存に限らず、人間社会そのものの存続に必須な存在となりました。考えてみれば、発電所でタービンを回すのも蒸気なのですから、電気だって空気が作っていると言つても過言ではありません。では、人類は空気を完全に手なずけられたでしょうか。世界的に猛威を振るう気象災害への根本的な解決策や、ある時代にまき散らした有害物質の有効な回収方法はいまだ存在しません。人類にとって、まだまだ空気は手におえないほど巨大

で、小さすぎるのです。ことあるごとに、空気に限らず、何かと自然を調伏したと驕りがちな私たち。安易に「空気を読め」などと言わないためにも、本書の一説を戒めにしようと思ひます。 「気体（ガス）の語源は混沌（カオス）である。そして古代神話では、不死の神々ですらカオスを手なずけることはできなかった。」

働きながら

猫という癒し

羨ましい

=

リモートワークが進む中、ご自宅ですべてをされている方も多いのではないのでしょうか。仕事、ペットの乱入があつて仕事に集中できない！という「あるある」な経験、ありませんか。書店に勤める者として、振り向けばペットのいる空間で仕事ができるなんてうらやましい限りですが。

『職場の猫』は漫画家さんの仕事場にいる猫と、まわりにいる人々（漫画家夫妻、夫妻の娘さん二人、著者であるアシスタント）の日常を描いています。職場の二匹の猫、はる（白い方）としじみ（黒い方）の無言の圧力、はるとの椅子取り合戦、ときたま入る飼い主である夫妻の突っ込み、特に娘さん二人と二匹の姉妹同然なやりとりがほほえましい！

あとがきによると、日本語の読めない方でも楽しめるように、セリフなしでの形式にしたとのこと。たしかに、猫との交流に言葉はいらないですよ。

痛くない！に ひきよせられて

本の力だけで速足歩行を手に入れようと頑張る五十四歳、次は歩き方更新にチャレンジです。

調子がよい→頑張りすぎて筋肉痛↓痛いから頑張らない↓筋力低下・調子悪い↓筋トレとストレッチを頑張る→調子よい→頑張りすぎて……の輪廻から解脱

するべく、そもそも歩き方を変えれば？と思い立ち、「痛くない！」という副題に魅かれ『痛くない！』

疲れにくい！歩き方の教科書』を手に取りました。著者は剣道家とのことで憧れのナンバ歩きに近づけるかもと喜んで取り組み始めています。

何はともあれ「曲げる歩き」をやってみたところ、確かに身体が軽いという実感があり、やる気になります。ただ「伸ばす歩き」にひきずられスムーズには歩けません。そこで歩き方の前の「動き

作りのためのエクササイズ」に取り組みました。「両太腿の付け根からゆっくり外に回して戻す」と書いてあるのですが、まず回せません。

「痛み別 歩き方の処方箋」という項目があるので、自分の痛みの該当箇所の対策がとれます。痛みを緩和しつつ、回せない付け根を回すべくこの本のエクササイズ、と歩き方、前回までの筋トレとヨガとストレッチを駆使して、普通歩行から速足歩行へのあしがかりを！もうすぐ五十五歳、また風を切って歩きます！

おうちごはんを ますます楽しく

ますます楽しく

……おうちごはんが増えてメニューがマンネリ化していませんか。そんな時目に飛び込んだのが、この『いつもの「おうちごはん」が特別になるレシピ』。

例えば「焼かないローストビーフ」や「炊飯器で作る簡単カレーピラフ」など。市販のお惣菜や缶詰、コンビニ食材も利用して作れるのがポイントです。

また、ハロウィンやクリスマスなどの季節のイベントごはんも紹介されていて読んでいだけでもワクワクしてきます。

普段のおうちごはんがちょっと見栄えて、おいしいスペシャルごはんにかわる技が満載です。

とうとう

出ましたか

昨年はおうち時間が増え、料理系YouTuberの方々の活躍もあり、料理やお菓子のレシピ本が本場にたくさん発売されました。しかし、国民食であるラーメンとなると話は別。

お店を紹介する本は数多くありますが、レシピを紹介する本は意外と少ないのです。

今回紹介する『極上のおうちラーメン』は静岡県にあるラーメン店「ラーメンろたす」の店主が、スープ、たれ、トッピングのレシピを家でできる分量に替えて公開しておられます。組み合わせ次第で、極上の塩ラーメンからこつてり二郎系まで作れてしまうものすごい一冊なのです。

著者の希望である、「あなたとその周りの人を笑顔にする」為に作ることも良いですが、ラーメンニアの方にも、知識を深め、一層ラーメンを好きになる為に読んでいただきたいです。

納得の

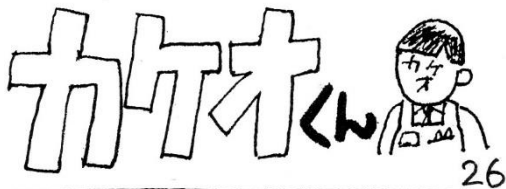
シズル感！

「かける事で美味しさ倍増！シズル感満載の食べ物絵本」。はらぺこめがねさんの新作『かける』のキヤッチコピーだ。想像出来はするが、果たして「シズル感」とは何だ？

作者のはらぺこめがねさんは食べ物絵本の数を多く出版している夫婦ユニットだ。著作の『にくのくに』や『すきやき』を読んだ時、食物よりも美味しそうな絵に衝撃を受けた。そして、その日はどうしても肉が食べたくなった。これこそが「シズル感」。食欲が刺激される感覚である。

今回の新作はホットケーキやオムライスなどに上から何かをかける事で美味しさを倍増させている。食べ物の上からケチャップや醤油をかける際の擬音で子どもたちの心を掴み、出来上がった料理で親の心までも掴んでいる。

何故こんなにも、ホットケーキが美味しそうに見えるのか。それはシズル感が満載だからだ。ハチミツがホットケーキの上からたつぷりと滴っている様はとても絵とは思えずシズル感がすごい。この絵本を読んだ日の食事もきつと決まってくるだろう。



山田風太郎って今まで何度ブームになったのだろう？

かくいつカケオくんも今『明治断頭台』を驚きながら読んでいます。

現代も『戦中派不戦日記』のマガ仕が進行中である。

オススメは『柳生十兵衛死す』。十兵衛なりの室町？と思いたあなた。



【書誌情報】『追読人間臨終図巻』(山田風太郎、サメチオ／徳間書店)①～②各一五〇〇円、『明治断頭台』(山田風太郎／角川文庫)八四〇円、『柳生十兵衛死す 上・下』(山田風太郎／河出文庫)上・下各一〇〇〇円

※価格は本体価格です。